

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

5月号 学童保育 「ぷらいむ・たいむ」が2校になりました。



編集発行人：濱塚有由 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市山手区山手3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

ひとりひとりを大切に

荒井崇志（宮城県小学校教員、盛岡YMCAリーダーOB）

YMCAで活動している子どもたちは本当に生き生きと活動しているなど、思うことがよくありました。なぜ、あんなにも子どもたちが生き生きと活動することができるのでしょうか。まず挙げられるのが活動が子どもたちにとってとても魅力的なものであることです。今の忙しい子どもたちにとって、YMCAの活動のように色々な体験ができる場は、多くはありません。YMCAではリーダー達が子どもたちにあった活動を悩みに悩み抜いて提供してくれます。子どもたちにとっては、このうえない学びの場だと感じます。こうした学校や家では体験することのできない活動が子どもたちを生き生きとさせているのだと思います。

次に個性的なリーダー達がたくさんの事を教えてくれるということです。リーダー達は、それぞれの経験、特技、考え方を生かしてたくさんの事を教えてくれます。

そして、大学生のお兄さんお姉さんと触れ合うということは子どもたちにとってとても新鮮で楽しい時間なのです。

そして最も私が素晴らしいと思うことは、リーダー達が子どもたち一人一人を大切に思い、居場所を作っているということです。YMCAのリーダー達は、子どもたち一人一人としっかり向き合い、子どもたちの新しい一面を引き出してくれます。子どもたちは、自分の居場所があるからこそ伸び伸びと活動することができているのだと思います。私もYMCAのリーダー達のように子どもたち一人一人を大切に、これからも活動していきたいと思えます。また、YMCAもいつまでも子どもたちにとって魅力的な場所であってほしいと思います。

# ぷらいむ・たいむ本町校



ぷらいむ・たいむ本町校も今年で開校から6年目を迎えました。新入生も増え、参加人数は35名となり、昨年にも増して賑やかに日々を過ごしています。また、今年度は本町校開校以来初めて、どの学年のメンバーもいる年という事で、お兄さん、お姉さんから教えてもらう事、年下の子から得る事が沢山ではないでしょうか。日々を過ごす中で、時にはなかなか上手いかなかったり、他の子とぶつかる事等、様々な事がありますが、そういった体験が、子ども達にとつてのこれからの形成する大切な栄養だと考えています。そして、そういった場面に出会った時、諦めず、向き合おうというのを伝えられる様、また、背中で見せられる様、これからも日々楽しく仲間達と過ごしていきたいと思えます。

文責・小川 嘉文（盛岡YMCAスタッフ）

↑みんなで、折り紙のホールケーキを作りました☆たくさん時間がかかったけどやり切りました

↓最近はやっているカードゲーム『デュエマ』と『バトスピ』。ぷらいむの沢山の師匠たちのおかげで、最近ようやくルールが分かってきました。



↑自由の女神(?)にしがみつくとともに仮面ライダー!? 素敵な世界観です☆



→もちろん外遊びも忘れていません!! 遊びの基本は動くこと♪頭も体も元気一杯に動かしながら、写真には、得意の変がおで写ってくれま



## 新職員が増えました!

こんにちは。シロクマこと、家村知佳です。突然ですが、4月より盛岡YMCAのスタッフとしてお世話になることになりました。これまではリーダーとして携わってきた分、スタッフとしての活動はまだまだ慣れないものですが、先輩スタッフの助言を聞き、リーダー達に力を貸してもらいながら良い活動をしていきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。



# ☆ふらいむ・たいむ前潟校開校☆

4月からふらいむ・たいむ前潟校が新しく始まり、早1カ月が経ちました！1年生9人、2年生2人、3年生1人の計12名が、わいわい・がやがやと過ごす様子を写真とともにご覧ください♪

前潟ふらいむお馴染み！？  
のクローゼット基地♪ ↓



↓カウンターキッチンも子どもたちの手にかかればステージに変身！？



↓さあ外で思いっきりあそぶぞ！！



→土曜日は人数も少なくゆったり・まったりと過ごします☆



← 前潟ふらいむから校から虹が見えました

ふらいむ・たいむ前潟校は四月に開校をし、毎日子どもたちとスタッフの元気な笑い声が、中でも外でも響いています。  
まだまだ、始まったばかりで子どもたち同士がぶつかることがあったり、気づけばまた遊んでたりと、たくさんの方が起こる毎日です。  
ですが、一人ひとりのペースを大切にしながら、それぞれが生活を共にする中で、お互いのことを考え、感じあう、そんな温かく、しっかりとつながっていく空間と時間を子どもたちと一緒に過ごしていきたいと思えます。  
文責：浅沼慧（盛岡YMCAふらいむ・たいむ前潟校担当）

5月の予定

- ★5月14日(土) もりおかワイズメンズクラブ第1例会 (於JARAN JARAN)
- ★5月15日(日) サンディスクール

- 「オリジナル・マグネット アドベンチャー5月活動作り」 (於：前潟センター)
- 「火おこしに挑戦！」 (於：つどいの森)
- ★5月26日(木) 盛岡YMCA理事会・常議員会
- ★5月29日(日) 会員総会

- (於：岩手情報交流センター 6階団体活動室③)
- ★6月12日) サンディスクール
- 「スライムでスーパーボール作り」

6月予定

- ★6月11日(土) 会員総会

★ 維持会員 ★

盛岡YMCAは、1983年から活動を始め世界を見つめながら盛岡の地域に根ざした活動を多くの方々から支えられながら続けてきました。維持会員とは、盛岡YMCAの使命に賛同し盛岡YMCAの活動を支えるため、維持会費を払って会員となった方です。郵便払込取扱票に「ご氏名、ご住所、通信欄に「維持会費」もしくは、「寄付」とご記入いただき最寄りの郵便局にてご送金下さい。口座記号番号 02290-9-54655

感謝  
2011年度  
順不同・敬称略  
●維持会  
花田瞳、熊谷太、今松佳子、南原良哉  
●寄付金  
花田瞳、今松桂子  
◆盛岡YMCAの維持会員としてYMCAの諸活動をお支え下さい。申し込み方法は、左記をご参照下さい。

リーダーお勧めの本 やんくみリーダー「ごちゃまぜカメレオン」

エリック・カール 作 やぎたよしこ 訳



皆さんはカメレオンを知っているでしょうか？葉っぱの上では緑色。赤い花の上では赤。体の色を変えながら、カメレオンは平凡な暮らしをしていました。ところが、ある日、動物園に行き、色とりどりの美しい動物たちを見てからというもの、カメレオンにはいろんな願いが湧いてきました。その願いは次々と叶えられていき・・・？

絵本「はらべこあおむし」で有名なエリック・カールですが、今回は彼の別の作品を紹介しようと思います(^o^)/主人公は擬態の天才・カメレオンです。カメレオンは他の動物たちに憧れ、その思いを口にするとだんだん不思議な生き物へと変わっていきます。その様子はいつになっても面白いなあと思います。エリック・カールの鮮やかで美しい絵も見るだけでわくわくしますよね。私はこの絵本が本当に大好きで、今でもときどき思い出したかのように本棚から引っ張りだして読んでいます。

実は私も初めて知ったのですが、この絵本の誕生にはこんな素敵な経緯があるそうです。あるとき子どもたちが「動物の絵を描いて！」と作者にせがみました。いろんな動物の絵の注文をするので、動物たちの特徴ある部分を描きつないでいくと、できあがっていったのは複雑な生き物。複雑になればなるほど子どもたちは喜び、この絵本誕生のきっかけになったというのです。そこにカメレオンの特性を生かし、たくさんの色を用いた結果、エリック・カールらしいカラフルでもおもしろい作品ができあがったというわけです。

きっと、小さなお子さんからお父さん、お母さんまで楽しめると思いますよ(^-^)



こほれ種①

「共感」と「公共」

日本基督教団内丸教会牧師 (元日本YMCA同盟 主事) 中原真澄



盛岡YMCAが始めた震災被災地での支援活動は、今も全国のYMCAの支援を得て続けられています。こうした働きを見ると、今更ながら、YMCAの繋がり良さ・強さをつくづくと感じます。こうした活動の根にあるのは、他者の痛みや悲しみを自分のことのように感じる力＝「共感」する力だと思ふのです。この「共感」する力は、教えられて身につくものではありません。人と・自然と、多くの場で共感する体験を繰り返す中で自ずと身につく、本当の「力」です。この「共感」する力を日頃の活動の中で最も大切にすべきのがYMCAでした。▼今、現地や報道で、YMCAに限らず様々な団体や個人が被災地に駆け付けて活動しているのを見ると、日本も変わってきた・・そう感じます。かつての日本にも、身近な親族や仲間（「ムラ」と言ってよいでしょう）に手を伸べる人は多くいましたが、遠くの人々の苦しみや悲しみ、訴えに答え、何かしようと動き出す人は、それ程には多くなかったように思ふます。そんな日本が変化を最初に見せたのは、1993年の北海道南西沖地震だったように思ふます。そして、その変化はずっと深まり、広がってきています。▼家族や地域、会社といった、これまでの「ムラ」的な繋がりが壊れてしまった時代だからこそ、「共感」をベースにした、新しい「公共」をつくる思いが強まっている・・そう思えてなりません。そして、こうした新しい「公共」を2千年前から示し続けてきたのが、イエスが語り、また身をもって現した「神の国」でした。イエスが言う「神の国」の「神」とは、高みから世界を見下ろし、支配する神ではありません。常に、苦しむ人の叫びに耳を傾け、悲しむ人々と共に泣き、そして手を携えて共に立ち、歩む神・・でした。そしてYMCAは最初から、そうした人々と共に歩むことをその使命として、活動を展開してきたのです。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(ローマの信徒への手紙12章15節)

～表紙の写真から～



5月1日(日)、今年度初のアドベンチャーが行われました。子ども7人、リーダー7人、スタッフ2人、和気あいあいとした雰囲気でも過ごしました。

今回のアドベンチャーのテーマは「春の色をさがしに行こう！」です。当初の予定では小鹿牧場へ行くはずでしたが、当日はあいにくの雨。よって、内容は『春をさがしに街中探検★』となりました。本町のぶらいむ・たいむを拠点に、15人の春色捜索隊は2つのグループに分かれ、足の向くまま、気の向くままに街へと繰り出して行きました。

イメージしたものを必死に探す子、キョロキョロしながら手当たり次第に探す子、あいあい傘のカップルに浮かれちゃう子…。探し方も見つけたものも、それぞれの子の特徴がよくでていました。ときには、街中でしか見られないような意外な「春」も…。

傘をさしてのんびりと歩くのもなかなか風情があるものです。子どもたちが見つつけてくれた春はどれも冷たい雨に濡れていましたが、踏みつけられてばかりの草花も岩の間で窮屈そうにしている石割桜もとてもきれいな花を咲かせていました。子どもたちと共に一生懸命に生きているもの達を見つけて良かったと思います。それらを見つけてきた子どもたちの目や表情もとてもキラキラ輝いていたことが印象的でした。(表)